

## 四日市港 地震・津波検討会議（第5回） 議事概要

日 時：平成 25 年 3 月 6 日 10:00 ～ 11:30  
場 所：四日市商工会議所（1F 会議所ホール）

### 《座長》

- 地震津波検討会議を重ね、地震津波に関連した施策が具体的に進んでいる。
- また、伊勢湾GPS波浪計は7月に稼働すると聞いている。
- 本日の会議では、これまでの進捗・検討状況の報告を頂くとともに、皆様のご意見を承り検討を進めてまいりたい。

### ＜四管議会議員＞

- 緊急物資輸送計画の策定にあたり、「役割分担」に加えて「指揮命令系統」についても明確にしておく必要がある。また、基幹的広域防災拠点についても、名古屋港と四日市港との関わり方・支援方法を明確にすることが重要。
- 避難誘導計画については、コンビナートがある塩浜地区の背後にも多くの住民・財産が存在するので、是非検討していただきたい。
- 対策を有効に機能させるためには、ひとり一人までへの周知が大切。
- 津波の圧力は弱いところに集中する。防護レベルを統一しないと弱い地域に被害が集中することに留意。

### ＜自治体等＞

- 市としても関連機関と連携して津波避難ビルの指定（現在 113 カ所）、津波マップの各戸配布及び防災無線の配備（270 機）など、津波避難対策を推進中。
- 海域へ漂流するコンテナや自動車対策に加え、陸域への漂流物対策についても今後検討していく必要がある。
- 県では、川越町の海岸堤防を TP+7m まで嵩上げする対策を実施しているところ。朝明川周辺 300m が完成。残る 560m についても H24d に測量を実施している。
- 海岸護岸の老朽化対策は、四日市地区において 7 カ所計画している。うち 1 箇所が今年度完成し、来年度に実施する 2 箇所について予算を要求中。
- 今後も関係機関と連携して対策を進めていく。

### ＜民間等＞

- 具体的な検討が見える形で進められており感謝。
- 霞地区の避難路の観点からも霞 4 号幹線の早期整備をお願いしたい。
- 協会としては、ソフト面での役割が大きいと考え、役割を果たすための準備を行い

- たいと考えているので、災害時の役割を明確にして欲しい。
- 対策を実行するためには予算が必要。予算確保にご尽力願いたい。
  - 今後、時間軸を踏まえた行動計画へ発展していくことを希望。
  - BCP策定が重要。我々も漂流物対策を行っていく。
  - 震災後の電力供給について、当社としても検討を進めていく。
  - 避難路（シドニー通り）の液状化や、防潮堤の耐震性を懸念。  
特に防潮堤については、早期に補強を進めていただきたい。
  - 四日市港では地域に石油や電力を供給しているように、それぞれの地区（港）で特色がある。港湾BCPについては、これらを踏まえて検討していく必要がある。

## <国>

- 昨年度の地震津波対策検討会議にて策定された「基本方針」に基づき、ソフト面・ハード面から検討を進めているところ。
- 8月29日には内閣府より巨大地震による推定津波高さが公表され、現在、三重県で浸水域の検討を進めている。
- 昨年（11月）には「基本計画」に基づき、港湾BCP策定に向けて作業部会を立ち上げ、現在、行政関係者において骨子を作成しているところ。作成状況にあわせて、今後、企業の皆様にも会議に入って頂き、検討を進めていく予定としている。  
また、情報については、あらゆる場面を通じてお伝えしていく。
- 笹子トンネル事件を契機に、港湾施設においても緊急点検を実施するため、準備を進めている。
- 本会議を通じて、四日市港の地震津波対策として、真に必要な事業、予算化へ繋げていきたい。
- 現在、新たな消防船を建造中であり、3月21日に四日市港へ配船予定。  
新たな消防船は、旧船と比較して放水能力は劣るが、速力は向上している。  
名古屋港の消防船と併せて、2隻体制で伊勢湾全域をカバーしていく。  
また、小型船協会と連携し、未啓開のため水深が浅くても緊急海上輸送活動ができるよう対応を調整中。
- 防潮堤の耐震性については、不十分な箇所があり、対策が必要な防潮堤は順次整備していく。  
資料の浸水図において堤内地が空白になっているのは、当地域が安全だという意味ではなく、当会議の主旨が港湾機能維持であるため、当地域について検討をしていないという意味であり、誤解の無いようにしていただきたい。
- 民間施設の津波対策への国からの費用的な支援については、現時点では固定資産税の減税措置のみであるが、民間施設への支援については必要だと認識している。

以 上